

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村三番地		
所在地	石狩市樽川3条3丁目4番 (電話) 0133-72-6030		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月6日

【情報提供票より】 (21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 1月 21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,600 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 25,000 円 暖房費(10~5月) 10,000円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (10月 16日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.4 歳	最低 73 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花川病院、ラビット歯科、みき内科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に住宅を改良して開設した当ホームは、21年4月にグループホーム本来の機能性を重視して新築した現在地に移転しました。このホームで利用者は、「地域の中でその人らしく暮らす」とした独自のホーム理念のもと、職員の明るく意欲的で利用者一人ひとりに合わせたケアサービスを受けながら、ゆったりと楽しく過ごしています。ホームは家族との連携にも配慮し、ホーム便りに一人ひとりの様子も記載し、ホームページでも生活状況を写真などで知ることができるなど、家族が安心できるホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で課題であった職員を育てる取り組みは、従来も人材育成に力を入れていましたが、さらに外部研修を含めて研修マニュアルを活用しながら計画的に進めています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員に評価表を細分化して配付し、各人が記入した表をホーム長がまとめています。評価結果による課題は、ミーティングで職員全員が検討し、改善に向けて取り組んでいます。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、地域住民や包括支援センター職員を含めたメンバーで定期的に開催しています。会議では、活発な意見交換とホーム側から避難訓練への協力要請などを行なっています。会議の意見要望等はミーティングで検討し、運営法人にも報告しながら改善に向けて取り組んでいます。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームは苦情処理体制を整備しており、家族からの意見、要望があった際には、毎朝の申し送り時やミーティングで処理方法を検討し、内容によっては運営法人に報告しながら改善に取り組み、ホーム運営に反映させるようにしています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは、今年4月に現在地へ移転してきたばかりですが、地域住民の理解もあり、町内会加入や町内会行事への参加など、地域との連携が進行しています。今後は、地域住民に気軽にホームを訪れていただくよう、ホーム行事の案内、相談受け入れなどを積極的に行ないながら、地域との交流を図る予定です。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念の中で地域住民との交流を掲げていますが、当ホーム独自の理念も職員が考えて作成し、利用者が地域の中に溶け込んで安心してその人らしい暮らしを支えるよう努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや毎朝の申し送り時にホーム理念に基づいたケアサービスを意識しながら話し合い、職員全員の共有として、日々利用者の支援に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、今年4月に現在地へ移転してきたばかりですが、近くに他のグループホームもあるため地域住民の理解もあり、協力的に受け入れられています。ホームは町内会に加入し地域行事にも参加するなど、地域との交流に努めています。	○	ホームが、地域との交流を積極的に進めようとしている姿勢は評価できます。さらに、地域住民が介護関連などの相談に來られたり、ホーム行事に参加するなどの一層の交流を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義と必要性を理解しており、自己評価は各職員の得意分野を分担しながら作成しています。評価結果の課題はミーティング等で検討し、内容に応じて改善に取り組んでいます。		

石狩市 グループホーム 笑顔の村三番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域住民や包括支援センター職員をメンバーとして定期的に開催しています。会議では、ホームの状況報告の他、ホームに関する質疑応答やホームから地域への協力依頼などがあり、これらをホーム運営に活かすようにしています。	○	運営推進会議のメンバーは、ホーム関係者以外が3名と少ないため、欠席の場合も想定して民生委員、教育関係者、町内会役員などの方々を増員することを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	石狩市内のグループホーム連絡会議で行政担当者と頻繁に接触があります。さらに、運営法人の職員やホーム長が担当窓口へ行き来し、情報交換や相談など連携を密接にして、ホーム運営に反映させています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族のホーム来訪が多く、その都度利用者の生活状況を話しており、毎月発行のホーム便りにも利用者一人ひとりの様子も伝えていきます。また、家族はホームページから利用者の暮らしぶりを知ることができるため、家族から喜ばれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム運営に対する家族からの苦情や意見等に対する処理体制は整備され、家族来訪時にも聞くようにしています。苦情等があった際には、ミーティングで話し合ったり内容に応じて運営法人にも伝え、ホーム運営に反映させるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人間関係が良好な職場のため、定着率が高く、離職者は少ないが、異動等がある場合は新旧職員の引き継ぎを十分に行なっています。さらに、利用者への紹介や時間をかけて話し合うなど、利用者への影響がないよう配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成は、年間計画を立て、毎月内部研修を実施しています。外部研修は、主として年度後半に派遣しており、特別な事情のある職員以外は年に1回以上の参加をしています。外部研修結果は、ホーム内で報告し、職員の共有となるよう努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の管理者会議や研修会、スタッフ交流会に参加して、同業者との情報交換等が行なわれています。また、他ホームの行事への参加や来訪もあり、これら同業者との交流を通して利用者への質的サービス向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入居前に家族や医療機関と入念な打ち合わせを行ない、ホームを見学していただきながら、納得して入居していただくようにしています。入居当初は利用者の不安感を取り除くため、家族との連携を十分に取ながら、ホームに馴染めるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護する一方的立場にならないよう注意し、調理方法、野菜作り、子育て方法など、利用者の得意分野を教えていただき、共に作業を行なうなど、生活を楽しみ支え合う関係を大事にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日々の関わりから、一人ひとりの思いや意向を把握するようにしています。把握が困難な場合は、家族からの情報や利用者の表情及び行動から判断し、利用者本位のケアサービスに努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族や利用者から希望等を聞き、医療機関とも相談しながら職員全員でカンファレンスを行ない、利用開始時の暫定計画、定期計画を作成し、職員全員の共有としています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の介護計画は3ヵ月毎の定期見直しを実施しています。利用者に変化のない場合は計画を継続しますが、状態変化のある場合は医療機関とも相談しながら、随時見直しを行ない、家族へも新たな計画を説明しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは介護タクシーを利用して、通院、ショッピング、外食、花見など様々な外出支援を行なっています。また、各種ボランティアの受け入れ、地域住民からの介護関連の相談に応じるなどの支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームへの隔週毎の訪問診療、医療機関への電話による相談、協力医療機関への通院など十分な受診体制にあります。入居前からのかかりつけ医への受診も自由であり、利用者や家族の要望に応じて通院等の支援を行なっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、重度化や終末期に対する指針を作成しており、利用者の入居時に家族へ説明して了解をいただいています。重度化に至った際には、医療機関や家族に相談しながら慎重に対応しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、日常の会話やケアサービス実施の時、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように十分気をつけています。面会簿や介護記録など、個人情報に関する各種資料も適切に管理されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的スケジュールはありますが、利用者のペースを大切にして、一人ひとりの役割や楽しみごとの支援をしています。		

石狩市 グループホーム 笑顔の村三番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、1週間分を利用者の希望等を聞きながら決め、食材の買い出しも共に行なっています。食事の準備や後片付けは職員と利用者が一緒に行ない、食事中は明るい雰囲気の中で話し合いながら楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回、午後の時間帯を原則としています。現在、夜間の入浴希望者はいませんが、希望がある場合はできるだけ対応するように努めています。入浴を拒む利用者には、無理をせず根気よく説得しながら入浴を勧めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な調理や、掃除、裁縫、花飾りなどを日常的に自分の役割として行なっています。ホーム内では習字など、習い事やボランティアによる尺八や三味線の演奏、手品などを楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候状況や利用者の体調に配慮しながら、日常的に散歩やショッピングに出かけています。年間行事計画で車両による外食、花見などの外出支援も毎月実施し、できるだけ戸外に出るよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の道路を大型車両が頻繁に通行しており、利用者の事故防止のため、やむを得ず日中も施錠しています。施錠の必要性は家族に説明して了解をいただいております。利用者の外出には職員が素早く対応して、利用者に閉塞感を与えないよう十分に配慮しています。		

石狩市 グループホーム 笑顔の村三番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署の協力をいただきながら年2回実施し、夜間想定訓練も行なっています。運営推進会議においても避難訓練の説明と協力要請をしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量を毎日記録しながら、栄養バランスに配慮しています。食事の献立は1週間単位で利用者の希望も取り入れています。運営法人の管理栄養士によってカロリー計算も行なわれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年完成したばかりの新しい建物は、内部全体が明るく清潔でバリアフリーの暮らしやすい構造となっています。共有スペースの居間兼食堂は、空気清浄機やエアコンが設置されており、利用者作品の習字や植物などが飾られて、暖かい雰囲気の中で利用者は快適な暮らしを楽しんでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さがある居室には、備え付けのロッカーと利用者が使いやすい高さに調整した多目的ステンレスパイプにより、室内の整理が容易になっています。暖房設備も安全な蓄熱式で、自分の使い慣れた調度品などを持ち込み居心地良く暮らしています。		

※ は、重点項目。